

平成31年度（2019年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	生物基礎（2）、生物（2）	学年	2	類型	理系
学習目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標				自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	生物基礎 予備学習 1. 顕微鏡観察 2. ミクロメーター 第1章 1. 生物の多様性と共通性	・顕微鏡やマイクロメーターを適切に使用することができる。 ・生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間 ～期末考査	生物基礎 第1章 2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸 第2章 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解する。・DNAが複製、分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。・DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末 ～2学期 中間考査	生物基礎 第3章 1. 体内環境としての体液 2. 腎臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫	・体内環境が保たれていることを理解する。・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。・免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間 ～期末考査	生物基礎 第4章 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム 第5章 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランスと保全	・陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解する。・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末 ～3学期 学年末考査	生物 第1章 1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造 5. 物質輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3学期 学年末考査 ～年度末	生物 第2章 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化 第3章 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現	・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。・光合成によって光エネルギーを用いて有機物が作られる仕組みを理解する。・窒素同化について理解する。・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版 生物基礎」「改訂版 生物」数研出版 「ニューグローバル 生物基礎+生物」東京書籍						
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)						
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み						